

【子牛の下痢でバイトリル?】

はじめに

子牛で下痢をしたときに、“**バイトリルワンショットは打ったけど**”とその後、診療で呼ばれたときに言われることが多いですが、そもそも高価で強力な薬を打つ必要があるのでしょうか？

子牛の下痢の原因

感染性下痢

ウイルス性：ロタ、コロナ
細菌性：大腸菌、サルモネラ
寄生虫性：コクシジウム

非感染性下痢

消化不良性：給与飼料
神経性：飼育環境

クリプトスポリジウム

原因	発症時期	発生率	死亡率
子牛の消化機能と食餌	4週齢以内	—	低い
大腸菌	1-3日齢	30%程度	5-25%
ロタウイルス	5-7日齢	5-80%	5-60%
コロナウイルス	1週齢程度	冬季高い	高い
サルモネラ	4週齢以内	菌型による	菌型による
コクシジウム	離乳後～育成	10-15%	低い
クリプトスポリジウム	3日齢-4週齢	—	低い

子牛の下痢症は様々な要因が単一もしくは複合的に関係しあい発症しています。

バイトリルワンショット

- ・殺菌的に作用する抗生物質
- ・ほとんどの細菌、マイコプラズマにも効果
- ・血中の濃度が高いほど効果が高い
- ・搾乳牛への使用は認められていない

- ・親牛で使用するバイトリル 10%との違い：
最も高用量で投与できるので、効果が高い

→作用時間は同じ(作用時間が長いわけではなく、約6時間後に最高濃度(バイトリル10%の約5倍の濃度)に達し、48時間後には効果が全くなくなります)

下痢の原因を探る

実際の下痢の原因としては、**非感染性下痢**が多く、**ウイルス・コクシジウム・クリプトスポリジウム**も比較的多くみられる。一方で、大腸菌やサルモネラによる下痢症の発生割合は比較的低い。

サルモネラを強く疑う場合は、**バイトリル**の投与も良いと思いますが、獣医師を呼んだ方が良いでしょう。また、**生後すぐ**の下痢が多い場合は**大腸菌**が原因のことがあります。それはバイトリル以外(マイシリン等の注射や、経口投与の抗生物質)でも対応できると思います。

メタカム

ヒトでもお腹を壊して下痢をしたときに、わざわざ病院へ行って、抗生物質を処方してもらう方は少ないと思います。バファリン等の痛み止めや整腸剤を飲むでしょう。以前、このM情報で滝本先生が紹介(2018年4月)していたので、詳しくは書きませんが、バイトリルよりも消炎剤である、**メタカム**の投与が大切なのではないでしょうか。

さいごに

子牛における下痢が多い農場では、**発症時期**(生後どれくらい、季節で偏りがあるのか等)をまずは調べて、**原因を知った上で治療を開始**しましょう。**初乳の問題なのか、生まれた環境なのか、飼育環境の問題なのか、感染性なのか**、様々な要因が考え得ると思います。サルモネラの発症を疑わないのであれば、バイトリルの使用はあまりお勧めしません。(大腸菌の感受性がバイトリルしかない農場は使用も考えましょう)

母牛の初乳・移行乳を用いている農場では、分娩前の親牛への**下痢5種ワクチン**の使用により、子牛の**ロタ・コロナ・大腸菌**による下痢の予防になりますので、活用しましょう。

小方可奈江



Total Herd Management Service